平成12年２月20日発行　毎月１回発行

財団法人 ベターリビング
better living
NEWS
10月は住宅月間
平成12年 2 月号 vol.083

目次

●優良住宅部品（BL部品）の認定
●優良住宅部品認定基準の変更概要（その５）
●相互認証協定に基づく認定について
●ISO9000規格、2000年改訂の最新情報
●『自由提案型優良住宅部品』の認定
●筑波建築試験センター活動報告　アルミ・エコ素材住宅の検証実験始まる
●住宅部品PLセンター斡旋事案の紹介　温水洗浄便座のアース設置（No.2260）
●人事異動
●システム審査登録センター　ISO9000s、ISO14001の登録
●お知らせ　better living NEWS リニューアルのお知らせ
●BL部品の仕様等の変更
●1月の動き

優良住宅部品（ＢＬ部品）の認定

平成12年2月1日付で、以下の自由提案型優良住宅部品（屋内用電動車いす）の認定を行いました。

問い合せ先：当財団　研究企画部企画課　03-5211-0563

＜平成12年12月１日付＞

認定番号	企業名	名称および型式
BLF029904	ミサワホーム(株)	屋内用電動車いす「M－Smart」

優良住宅部品認定基準の変更概要（その５）

優良住宅部品認定制度の見直しに伴う認定基準の見直しを４月、８月、10月、12月に引き続き実施し、「融雪システム」、「スプリンクラー設備」、「給水ポンプシステム」の３品目について、平成12年２月10日付で公表・施行しました。また、平成11年８月20日に公表・施行を行った「電気温水器」についても一部見直しを行い、平成12年２月10日付で公表・施行しました。

各品目の主な変更点は以下のとおりです。

■ＢＬ認定制度改正に伴う全面見直し

１　融雪システム

【認定の対象範囲を変更したもの】

１．認定範囲として、融雪方式を「電熱式」、「温水循環式」と大きく2つに分けていたが、融雪方式と構成部品を明確にする為、「電熱式」、「電熱式(屋根一体型)」、「温水循環式」、「ヒートパイプ式」に分けた。

【性能試験方法や性能レベルを変更したもの】

２．システムは、自動運転を標準としているが、手動運転によるトラブルを未然に防止する為に、カタログや取扱説明書において「手動運転の留意点の説明」を表示することとした。

２　スプリンクラー設備

「優良住宅部品」の品目名としては、「住宅用」を一律で削除することとし、品目名を「住宅用スプリンクラー設備」から「スプリンクラー設備」に変更した。

３　給水ポンプシステム

【新たに基準を設けたもの】

１．ポンプ回転数制御又はその他の制御で、停止時に圧力上昇しないタイプの場合の停止から再始動するときの圧力低下について、現行基準では定めていなかったが、これを「20%以内」とした。

２．圧力タンク制御（小型圧力タンク）の場合のポンプの始動頻度について、現行基準では「30回／ｈ程度」という目安を示していたが、これを「30回／ｈ以下（ただし、単独運転のものは除く。）」とした。

３.単独運転の場合の受水槽について、現行基準では具体的な要求性能を示していなかったが、JIS S 3200-7:1997（水道用器具－浸出性能試験方法）で定める判定基準値を満たすこととした。

【性能試験方法や性能レベルを変更したもの】

４．制御盤の配線用遮断器の扱いについて、現行基準では､大型のシステムの場合、標準装備となっていたが、これを選択構成部品扱いとした。

■通常見直し

１　電気温水器

１．ＳＩ単位換算方法の変更

改正前は、１kgf/cm^2 → 98kPaで換算していたが、JISや労働安全衛生法施行令と換算方法が異なっていたため、１kgf/cm^2 → 100kPaで換算することとした。なお、労働安全衛生法施行令ではMPa表示になっているが、ＢＬ認定基準ではJISを引用していることもあり、JISに揃えkPa表示とした。また、「水頭圧」という表現もJISに揃えて「最大使用圧力」という表現とした。

２．ＪJIS改正に伴なう逃し弁、減圧弁に関する規定の変更

1998年12月に労働安全衛生法施行令が改正され、小型ボイラー（最高使用圧力が100kPaを超え200kPa以下、かつ伝熱面積が２m^{2}以下の温水ボイラー）の規制の見直しが行われたこともあり、JIS B 8414:1999（温水機器用逃し弁)及びJIS B 8410:1999（水道用減圧弁)が1999年９月20日に改正された。本基準でも当該規格を引用している箇所があるため、これらを改正後のＪＩＳの内容に揃えた。

問い合せ先：当財団　開発部　03-5211-0585

相互認証協定に基づく認定について

当財団とAAMA（American Architectural Manufacturers Association米国建築製造業者連合）が締結した相互認証協定（1998年10月）に基づき、2000年１月12日付けで、アメリカ企業のサッシ（断熱型サッシ）１社の認定を行いました。

この認定をするにあたって、当財団はAAMAが認証した製品の性能を確認し、また、日本国内での供給体制を審査しました。

当財団とAAMAは今後も引続き協力し、相互の認証事業に取り組んでいきます。

問い合せ先：当財団　研究企画部企画課　03-5211-0563

ISO9000規格2000年改訂の最新情報

1．ISO9000規格の2000年改訂作業は、一応順調に進んでおり、DIS（Draft International Standard）が完成するところまで来ております。

2．今後予想されるスケジュールはつぎの通りです。

1999年12月1日	DIS投票開始
2000年５月	DIS投票締切り
〃　年６月	TC176京都総会
（DIS可否が議論され、OKならばFDISへ）	
〃　年９月	FDIS作成
〃　年11月	FDIS投票締切り
〃　年12月	IS(International Standard)成立

3．ISO/DIS　9001：2000年の構造

ISO/DIS　9001：2000と既報のCD２の構造を比較してみましょう。

１）CD２よりも簡潔になった。文字総数も約15%減少した。

２）要求事項を表現している'shall'の数も、CD２より約15%減少し、現行の1994年版(JIS Z 9901では1998年版）とほぼ同じになった。

３）'shall'に続く動詞の数は増加している。

4．日本国内におけるISO9000規格（和文）は2001年２月／３月頃に出される予定です。これに伴う運用上の取り扱い方などについては、2000年上期中にJAB（財団法人　日本適合性認定協会）より公表される予定です。

問い合せ先：当財団　システム審査登録センター　03-5211-0609

『自由提案型優良住宅部品』の認定

当財団は、昨年４月、従来の優良住宅部品認定制度を見直し、新制度へと移行しました。この新制度への移行を機に新たに「自由提案型優良住宅部品認定制度」を創設しました。

今回この制度のもとで「個別処理用微生物分解方式生ごみ処理機」と「屋内用電動車いす」の２部品が認定されました。

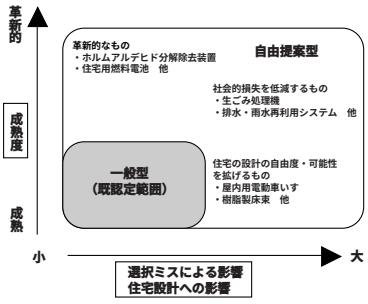
認定部品と自由提案型優良住宅部品認定制度の概要を改めて紹介いたします。企業の発想で開発、商品化されたものが、優良住宅部品として、ユーザーに届けられることは、企業、ユーザーの双方にとって大きなメリットがあると考えられます。

今後ともこの制度の普及、活用に務めてまいります。

問い合せ先：当財団　情報サービス部　03-5211-0572

自由提案型優良住宅部品認定制度の概要

従来のBL制度では、対象となる住宅部品の認定基準を定めてから公募し、申請のあった部品に対して評価、認定を行っていた。つまり認定基準のない住宅部品は、認定の対象とはならなかった。また、住宅部品の規格化・標準化の推進を目的の一つとしていたため、1社のみの独創的・革新的な部品は認定の対象に含まれていなかった。



新たな要求に対するBL認定範囲の概念図

しかし、建築基準法の改正に見られる性能規定化が進むことにより、これまでにない技術やコンセプトを取り入れた住宅部品（認定基準が想定していないような住宅部品）が企画・製品化されていくと予想される。

さらに、こうした住宅部品は、新技術を利用した部品などであるために一般消費者をはじめ中間ユーザー等も「製品の安全性はどうか？」「十分な性能をもっているか？」といった疑問を抱き、その採用を躊躇するケースも十分考えられる。こうした独創的・革新的な住宅部品についても適切な情報提供を行う必要が生じてきた。

これらの住宅部品をどのように認定の対象とし、的確かつ速やかに評価・認定していくかがＢＬ制度の大きな課題であると考え、その対応として制度改正を機に創設したのが、「自由提案型優良住宅部品認定制度」である。

この自由提案型優良住宅部品認定制度は、従来の認定基準の対象に含まれていない住宅部品、つまり認定基準を制定する際には想定していなかった住宅部品について、住宅部品供給者からの提案に応じ、一件ごとに基準を策定し認定を行う制度で、その目的は以下のものが挙げられる。

- ●より迅速に評価・認定を行い、消費者に適切・的確な情報提供を行う
- ●消費者等はこれらの住宅部品をより安心して選択・使用できる
- ●住宅部品メーカーにはより一層の技術開発促進のインセンティブとなる

認定部品の概要と認定のポイント

	個別処理用微生物分解方式生ごみ処理機	屋内用電動車いす
認定番号	BLF019904	BLF029904
認定企業名	株式会社田窪工業所	ミサワホーム株式会社
名　称	TY家庭用生ごみリサイクル機 「地球の友だち」電動式	屋内用電動車いす
型　式	EF-2A	「M-Smart」
部品概要	現在の廃棄物処理法では、家庭ごみは市区町村の責任で処理することになっており、各自治体が管理しているごみ焼却場への負担が増大している。また、ごみ焼却場から排出されるダイオキシンについては、低温燃焼が原因といわれ、その原因の一つとして、家庭から大量に出される生ごみがあげられている。 この認定部品は、そんな環境･ごみ問題の解決を目的とした、各戸で生ごみを処理する、微生物分解方式の生ごみ処理機である。	６５歳以上の高齢者のなかで、手すりや杖が必要な人や歩行困難な人が１７％にも及ぶ高齢者社会を背景に、一般住宅内での車いす使用者の増加が予想される。 しかし、これまでの電動車いすの標準的なサイズでは、壁面内寸法７８０mmであるほとんどの既存住宅で、回転はもちろん廊下などの角を曲がるのも不可能で、その使用にあたっては、開口部を広げたり、廊下やキッチンを広くするなど、住宅の改造を必要とした。 この認定部品は、既存住宅へも容易に導入できるよう、車いすのコンパクト化を実現した電動車いすである。
認定のポイント	●一般家庭で使用するのに十分な処理能力（７５０g/日以上、減量率８０%以上）を有すること。 ●排気口からの排気の臭気濃度が強くない(３００以下)こと。 ●かくはん時の騒音が大きくない（１mはなれた位置での等価騒音レベル：４５db以下）こと。 ●培養基材等は入手、交換が容易で、本体に交換頻度が明記されていること。 ●上ふたの強度として、万一子供が上ふたの上に乗ったとしても（静荷重：５４０N）破損、ひび割れ等がないこと。 ●安全装置として、ふたを開けたときに、かくはん装置及びヒータが自動的に停止すること。 ●培養基材･菌体は、これを専門に扱う公的機関により、健康に対して害を及ぼし、または及ぼすおそれがあるものではないと判断されたものであること。	●走行速度が適切である（最高速度：4.5km/h以下）こと。 ●前進にて住宅内の段差(２５mm)を乗り越えること。 ●屋内で想定されるスロープ(7.1度)の勾配を登坂できること。 ●回転性能として、幅0.７０mの直角路を曲がることができること。 ●子供がいたずらしても安全なようにチャイルド・ロック機能が装備されていること。 ●緊急停止機能は、コントローラーの操作レバーを前進から後進の状態にした場合、前進距離が0.5m以内であること。 ●コントローラーの耐久性能は、操作レバーを前、後、左、右に各々１０万回作動させ、機能上異常がないこと。
外観写真		

筑波建築試験センター活動報告

アルミ・エコ素材住宅の検証実験始まる

アルミ・エコ素材住宅の検証実験始まる

（社）日本アルミニウム協会が提案したアルミ・エコ素材住宅の研究が、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の1998年度提案公募型事業（環境負荷低減型生産技術）として採用され、その実証住宅の建設が筑波建築試験センター内（茨城県つくば市）で行われ、各種の検証実験が開始されました。

このアルミ・エコ素材住宅は２階建、延べ面積147m^{2}の建物で、構造体だけでなく外壁、屋根、開口部、間仕切りなどの各部位がアルミニウム合金で作られています。建物の各部材をできるだけ部品化、工場生産化にすることにより、現場作業を最小限の組み立て作業にとどめることを目指しています。また、アルミニウム合金の加工性、軽量性を生かしながら、在来木造程度の技術で建設可能な構法が考案され、工期を一ヶ月と大幅に短縮することも目標とされています。

構造システムは、耐震要素を組み込んだ軸組構造が採用され、部材はアルミニウム合金の加工性を活かした押出形材が新たに開発されています。外壁、屋根などは断熱性の高いパネルシステムを活用するなど、アルミニウム合金の全面使用により住宅のリサイクル性を高め、環境負荷を抑えています。アルミ・エコ素材住宅では消費されるエネルギーを最小限に抑えるだけでなく、自然のエネルギーを最大限に利用するための様々な手法が取り入れられています。軒下空間を現代風に取り入れた「屋外室」、太陽電池システムを組み込んだ「ダブルスキン（二重皮膜）屋根」を用いた日射や通風の制御システム、さらに、水の蓄熱性と自然対流を利用した暖房システム「アクアレイヤー・システム」と深夜電力を組合せた方法が試みられています。

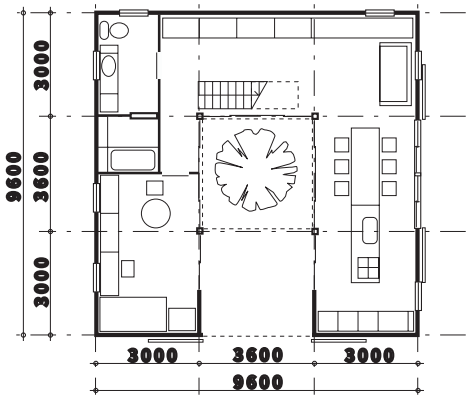
また、アルミ・エコ素材住宅では屋外室を積極的に活用することによって、“開かれた住い”を実現し、一戸建住居としてのみではなく、連続住居への展開やサポート・インフィルの住戸ユニットとして立体的な集合化へ展開することも可能なプロトタイプとなっています。

この実証住宅を使った研究は、つぎの４機関により実施されます。（社）日本アルミニウム協会は本プロジェクトの総括、実証住宅の建設、およびエコ素材住宅の有効性の検証を行っています。エコ素材住宅のコンセプトの策定と住宅の設計監理は建築家の難波和彦氏が担当しています。また、建設省建築研究所では環境負荷と居住性の定量的評価についての研究を行い、東京理科大学ではバリアフリーによる感性工学的特性の評価を行うこととなっています。

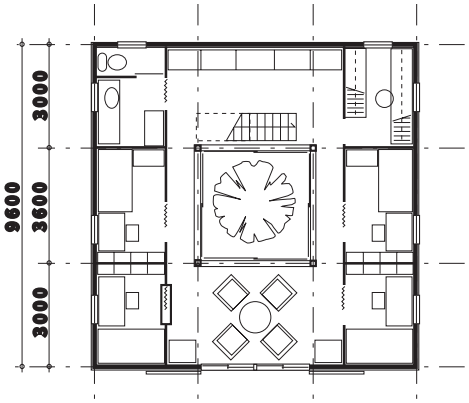
筑波建築試験センターにおきましても、構法の強度実験や居住性評価に関する測定について技術的な協力を行っています。

問い合せ先：(社)日本アルミニウム協会　03-3538-0221

アルミ・エコハウスの外観



１階平面図



２階平面図

住宅部品PLセンター斡旋事案の紹介
温水洗浄便座のアース設置(NO.2260)

99年６月にＰＬセンターでは以下の相談を受けた。

『つい最近ディスカウントショップで温水洗浄便座を購入し取り付けてもらったが、その後メーカー発行の取扱説明書を見ると“安全のために必ずお守り下さい”とある中に「アースをするように」と書いてあった。そこでメーカーのお客様相談室に聞いてみたら「建前としてはそうなっているが、90%以上付けてないのが実態ですよ」とのことだった。それだったら、どうして取扱説明書の中で警告をしているのか。感電や火事の心配などはないのか』

（危害情報受付概要52）

ＰＬセンターでは、取扱説明書の記載内容を確認すると共に、第19回住宅部品関連団体ＰＬ連絡会（99.6.8）に本件相談内容を報告し、合わせてアース設置に関わる情報の整理を参加メンバーでもあるリビングアメニティ協会温水洗浄器委員会に依頼した。

同委員会より本件に関して、第21回ＰＬ連絡会（99.11.10）で報告されたので、以下にその概要を記す。（詳細は、『ＰＬＣ情報99-11-034』を参照）

【質問１】

メーカーが購入者に対して『建前としてはアースを施設することになっている。しかし本音は付けていないところが90%以上あるだろう』と回答したことについて

【対策】

不適切な回答と考えるので、アースの施設については、お客様の安全を考え、アースの必要性を説明することを各社徹底する。

【質問２】

メーカーが取説で『警告』として取り上げている項目「アースを取り付けない場合の感電発生への警告」の実効性確保について

【対策】

「安全確保のための表示要領」（委員会作成）にあるとおり、取説、施工要領書やカタログにアース必要の警告表示を引き続き実施する。また、当委員会には家電メーカーも委員として参加していることから電気関連団体の情報を入手するとともに、機会があれば委員会としてアース問題の議論に積極的に参加していきたいと考える。

【質問３】

流通業者への周知――新しい商流への手当て

【対策】

商流如何に関わらず、アースの施設を積極的にお客様に勧めていただくよう、メーカー担当者が商流関与者に対してキャンペーン等により徹底的にお願いすることにしたい。

【質問４】

メーカーも施工者も現状を容認しているという問題に対して、業者間の責任限界を明確にする必要があると思うがその場合の施工説明書の役割について

【対策】

アースを施設するか否かの判断はお客様の判断であり、強制はできない現状から、メーカーとしては取説、施工要領書やカタログにアース必要の警告表示を引き続き実施するとともに、流通関与者にもお願いを徹底する。また、行政も含めた電気関与者によるアース問題の議論に積極的に参加していきたいと考えている。

問い合せ先：当財団　住宅部品PLセンター　03-5211-0567

人事異動

建設省住宅局関係（敬称略）

日付	氏名	新官職	旧官職
H12.2.1	田口　秀夫	辞職（(社）プレハブ建築協会総務部長）	住宅生産課長補佐
〃	荒木　英次	住宅生産課長補佐	大臣官房人事課長補佐

システム審査登録センター

ISO9000s、ISO14001の登録

システム審査登録センターは、平成12年１月18日付けで、下記企業(10社)のISO9000sに基づく品質システムについて審査の結果、適合と判断し登録しました。

また、平成12年２月５日付けで下記企業(１社)のISO14001に基づく環境マネジメントシステムについて審査の結果、適合と判断し登録しました。

これで、累計登録件数は、ISO9000sが80件、ISO14001が５件となりました。

問い合せ先：当財団　システム審査登録センター　03-5211-0609

品質システム登録リスト

登録番号	登録日	適用規格	登録企業の工場または事業所	所在地	適用する製品、プロセス又はサービスの名称
Q071	2000年1月18日	ISO 9001:1994 JIS Z 9901-1998	大槻電設工業株式会社	福島県福島市新浜町７番３４号	電気関連施設の設計及び施工
Q072	2000年1月18日	ISO 9002:1994 JIS Z 9902-1998	株式会社オノダ	岩手県水沢市真城字北舘１７	木造住宅プレカット部材の製造
Q073	2000年1月18日	ISO 9002:1994 JIS Z 9902-1998	株式会社旭ハウジング	滋賀県坂田郡近江町大字顔戸６８４－１	住宅外装木材の製造
Q074	2000年1月18日	ISO 9001:1994 JIS Z 9901-1998	株式会社三ツ星電器製作所	本社及び本社工場：東京都品川区荏原１－５－６ 小田原工場：神奈川県小田原市成田４２６－２ 大多喜工場：千葉県夷隅郡大多喜町部田３００ 徳島工場：徳島県板野郡板野町犬伏字馬越１－１	スイッチ、ソケット等の配線器具の設計及び製造
Q075	2000年1月18日	ISO 9002:1994 JIS Z 9902-1998	富山昭和住宅工業株式会社 ミサワホーム富山工場	富山県富山市千原崎一丁目６番３号	鋼製屋根梁、収納家具の製造
Q076	2000年1月18日	ISO 9002:1994 JIS Z 9902-1998	株式会社桑木組　事業本部	鹿児島県出水市黄金町３２４番地	土木構造物の施工
Q077	2000年1月18日	ISO 9001:1994 JIS Z 9901-1998	アジアプランニング株式会社 本社	熊本県熊本市渡鹿７丁目１５番２７－１０１号	建設コンサルタント、調査・測量、情報関連(GIS)、開発許認可、建築設計及び環境アセスメント
Q078	2000年1月18日	ISO 9002:1994 JIS Z 9902-1998	志眞建設株式会社　本社及び大阪本店	本社：大阪府泉南郡岬町淡輪５７４６番地の２７ 大阪本店：大阪府大阪市鶴見区横堤１丁目１１番４６号 堺営業所：大阪府堺市伏尾７１７番地	建築物、土木構造物の施工及び付帯サービス
Q079	2000年1月18日	ISO 9001:1994 JIS Z 9901-1998	株式会社川本	岡山県岡山市芳賀５３２０番１	上水道、下水道、工業用水道、浄化槽施設、農業用集落排水施設の設計、施工及び付帯サービス
Q080	2000年1月18日	ISO 9001:1994 JIS Z 9901-1998	吉原建設株式会社	宮崎県都城市中原町３２街区１号	建築物の設計・施工及び土木構造物の施工

環境マネジメントシステム登録リスト

登録番号	登録日	適用規格	登録企業の工場または事業所	所在地	適用する製品、プロセス又はサービスの名称
E005	2000年2月5日	ISO 14001:1996 JIS Q 140001-1996	鋼鈴機工株式会社 エンジニアリング部	神奈川県川崎市川崎区南渡田町1-1	各種プラント洗浄作業／工事

お知らせ

better living NEWS　リニューアルのお知らせ

ベターリビングでは、最近のインターネットの普及などに伴い、発信情報とツールの見直しをしております。『better living NEWS』も従来の印刷物から、インターネット配信の方向を探っております。今後はインターネットによる情報提供に軸足を移してまいりますが、購読者の方々のご意見を反映いたしたく、ご意見、ご要望などございましたら事務局まで、別添のFax用紙にてお寄せください。

また、インターネット業務全般に対するご意見、ご提案もお待ちしております。

『better living NEWS』事務局　電話：03-5211-0572　Fax：03-5211-0593　email：jyoho@cbl.or.jp

BL部品の仕様等の変更

変更事項凡例［A：機種バリエーションの追加／B：機種の廃止／C：名称・型式等の変更／D：仕様の変更・その他］

品目（分類）名	企業名	名称・型式	認定番号	承認日	A	B	C	D
玄関ドア	アイカ工業(株)	アイカ複合玄関ドアシリーズ	SD 0598-0030	1999.12.24	○			
	松下電工(株)	ナショナル玄関ドア　ノースビュー	DD 0895-S	1999.12.27			○	
サッシ（RC造住宅用サッシ・アルミサッシB型）	不二サッシ(株)	200型・280型・改修用サッシ	BAB 1296	1999.12.27	○			
		FRB－II（改修用サッシ）						
	YKKAP(株)	200型・280型・改修用サッシ	BAB 1596	1999.12.24	○			
		エクシマ70　BL－B型						
サッシ（RC造住宅用サッシ・断熱型サッシ）	YKKAP(株)	エクシマ70S　BL断熱4型1・2	BDS 0197-4	1999.12.24			○	
サッシ（天窓）断熱天窓	トステム(株)	S型：スカイライトウッディー 低放射ガス入複層ガラスタイプ	TM0 194-S	1999.12.24	○			
		1型：スカイライトウッディー 一般複層ガラスタイプ	TM0 194-1	1999.12.24	○			
墜落防止手すり	(株)サンレール	サンレールBLII型	TST 0397	1999.10.18	○			
ガス給湯器	(株)ノーリツ	GQ-1623WD-FBL　他	KT 0396-A	1999.12.15	○			
電気温水器	京セラ(株)	SHS-6462A-BL　他	EH 0198-A	1999.10.15	○			
石油給湯機	(株)コロナ	UIB-3320TX BL(A)　他	KB 0294-A	1999.12.15	○			
		UKB-3320TX BL(A)　他	KB 0294-B	1999.12.15	○			
暖・冷房システム	ガス14社	XS-0699AR　他	HS 1294 他	1999.11.30	○			
	(株)ノーリツ	ノーリツユテリアシステム	HS 0495-D -DK,-DR,-DRK	1999.12.15	○			
給水ポンプシステム	(株)川本製作所	NF-400SH-A　他	PU 0294	1999.10.4	○			
住宅用駐車装置（昇降式・昇降横行式）	(株)サノヤス・ヒシノ明昌	サノヤスパークP42W	PAS 1095	1999.10.7	○			
自転車置場	鋼鈑建材(株)	サイクルハウス	JO 0296	1999.12.27	○			

1月の動き

1月

[開発部]

1月13日　衛生器具・給湯器等の逆流防止手法検討WG
25日　階段室型共同住宅用エレベーター審査委員会
26日　給湯設備の省エネルギー性能基準検討WG
28日　健康的居住環境開発委員会 ホルムアルデヒド　その他建材WG
〃　技術委員会・設備部会（非熱交換型換気設備WG）
31日　増圧直結給水方式の拡大における技術検証委員会

[試験センター]

1．BL試験
・自転車置場
・換気扇
・給水タンク
2．主な一般依頼試験
・ハニカムパネルのせん断試験
・住宅用補強金物の強度試験
・枠組壁工耐力壁の水平加力試験
・高力ボルトの引張り試験
・床断熱パネルの放熱特性試験
・界壁の遮音性試験
・防耐火構造試験
・防火材料試験
3．委員会等
・住宅性能評価耐久性WG（12,14,31日）
・防災性能評定部会（12,24日）
・RILEM/CIB（13日）
・アルミニウム建築構造委員会薄板WG（13日）
・PC部材品質審査委員会（14日）
・エイベックスボード検討委員会（14日）
・住宅の音環境JIS規格原案作成委員会（17日）
・地域性に配慮した省エネルギー住宅技術の開発委員会（19日）
・住宅用免震装置の検討委員会（19日）
・PC部材品質認定基準見直しWG（19日）
・ISO/TC92/SC1,3（19日）
・機能性材料委員会（20日）
・浴室の修繕手法検討委員会（21日）
・エレベーターシャフト研究委員会（28日）
・管路系騒音低減設計小委員会（28日）

better living
NEWS vol.083

ホームページ http://www.blhp.org/

定　価　200円
発行年月日　平成12年 2月20日
発 行 人　十亀 彬
発 行 所　財団法人ベターリビング
〒102-0084　東京都千代田区二番町4番地5 相互二番町ビル3階
TEL　03-5211-0574（事務局ダイヤルイン）
FAX　03-5211-0593
筑波建築試験センター　TEL 0298-64-1745